

MMQC ニュース

Vol. 082
平成28年10月1日(木)
発行:(有)エー・エム・アイ

改めてワクワク・イキイキを実感しています!
暑い夏も過ぎ、良い気候になりました。スポーツ・食欲・読書の秋と言いますが、皆様はどんな秋でしょうか。本文で例会発表をご紹介しますが、改めて気合のスイッチを入れ直しています。老害にならないよう元気な爺さんを目指します。栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「生涯現役」でワクワク・イキイキと生きる!

右掲は、私が所属している大阪府中小企業家同友会阿倍野住吉支部の10月例会の案内です。ちらしにあるように私が報告者として「生涯現役!」人の役にたつてこそ我が人生~年をとってもワクワク・イキイキや!~と謳っているように私自身の内容をお話をします。

お蔭様で私は67才になっていますが、支部の方々のご好意でリハーサルをして頂き、自分の歩んで来た事を話ながら、三男への事業継承へ落とし込むシナリオだったのですが、話が終わってQ&Aタイムになり、若い仲間からの質問にテキパキと応えていたら、突然、支部長曰く「栩野さん、まだまだ、若く見える。事業を息子さんに譲る心算などないやろ!？」という突っ込みで気持ちの整理がつき、これでスッキリして「生涯現役」というタイトルに決まったのです。

若い人の感想なのですが、「支部に3人の60代がいるが、皆さん、イキイキとしているのは何故か?」とありました。私見ですが、この3人に共通する要因を調べると、一人は街の家電屋を事業継承して、いろいろと試行錯誤の上、家業に近い分野で「自然洗剤に特化したエアコン・クリーニング」で経営革新を行い大手生協という販路を得て安定、もう一人は継承した事業は仏壇屋だったが、その周辺でNPO法人葬儀費用研究会を立ち上げて活躍されている。そして、私は、小さいながらもコンサルと情報システム・Webデザインの会社を行っているのです。共通するのは自分で今の事業を起こしたという事なのです。

どんな事業でも先ずお客様があつての話です。例えば、お医者様でも流行っている先生とそうでもない方に分かれます。近所を見ても91才になっても豊饒とされて内科で頑張っている女医さんもいらっしゃいますし、



大阪府中小企業家同友会 阿倍野・住吉(ちん電)支部 10月例会
生涯現役!
報告者 栩野 正喜氏
会場 阿倍野住吉センター
参加費 無料 聴講費 1,000円

老後に必要な3つの安定:「年金」+「仕事」+「目標」

70才を目前にして医院を閉めた歯医者さんもいらっしゃるのです。長く続けるにはお客様の支持が必須です。早くリタイヤされるにもいろんな理由があると思いますが、やはり、お客様の支持が薄くなり存在感がなくなったというのも一因ではないかと推測しています。つまり、お客様との関係性が大切なのです。

しかし、一般的に、老後に必要な物として、先ず、安定した年金収入があります。この年金でも個人差があり国民年金だけの方は大変です。老後崩壊と言われるように、いろんな事情が待っているのです。例えば、衣食住で言えば、衣や食の費用は若い時と違って大きなウェイトを占めないが、住は賃貸やローン返済中というのでは、大きな支出となり年金だけでは生活が苦しくなるのです。

さらに、日常性(適度な仕事)の確保です。サラリーマンの方は定年後多くの方は職がなくなるのです。女性なら地域に溶け込む事も可能なのですが、男性はプライドが邪魔するのか溶け込めない方が多いのです。従って、有り余る時間を過ごすのにお金がかかるのです。何もしないと老化が激しくなり、ボケや健康も損なうようになりますのです。この支出が大変なのです。

その上、家の修繕や孫の祝金などの支出が待っているのです。こんな状況では、年金だけでは老後破壊になり兼ねないのです。その点、経営者は定年はなく、事業を譲ったとしても邪魔をしない関わり方ができるので仕事という時間の使い方があり若干の報酬も頂けるのです。休みも自由にとれるので余生も楽しめるのです。

最後の目標ですが孔子は60才「耳順」70才「従心」と教えてくれています。私の場合、若い人が育ってくれるのを見守る事と孫たちの成長が楽しみであり「生き甲斐」でもあります。勿論、地域社会への貢献という部分も増えて来ますので、積極的に参加して、今まで、余りお付き合いのなかった方々と交流して、地域に溶け込みたいと思っています。

ワンポイント・アドバイス

91才の女医さんをご紹介しますが、いつも待合室は満員という状況です。ホンマに患者に活かされているようにも見えます。私も「人の役に立つてこそ我が人生」と思っていますので、老害で悪影響を及ぼさないよう気をつけながら、仕事を続けたいと思っています。こんな理想を信念と呼ぶのでしょうか。この信念を生涯貫きたいと再確認いたしました。

